

新羅閩將の殘虐とスサノオの乱行

いそたけるのかみ

神の猛五十 真相に迫る

津井 三

新羅の閩將 (いんまのきみ) たまじひ

一、新羅多奇 (サタハム) の

「綾 (かび) 」とは「綾

を犯したことに違ひ、また、

平田篤胤によれば、スサ

亂行を列挙したが、美は「

ひ)」「つまり機織 (はた

天斑駒の皮を剥ぐとは、同

ノオの悪神たる象徴がイン

れどよく似た事件を、日本

おひ)の橋串のことであり、

じく新羅の閩將が調吉土伊

タケルなのであり、イソタ

書紀神代のスサノオの所行

これによつて身体を褻され

企毘 (つぎのま) (ま) (ま)

ケルは六世紀当時の新羅きつ

に見いだしてゐる。

たのは、古事記では天服織

の褌 (はかま) を剥ぐ行為

ての閩將 (きよまじひ) (ま)

「…又天照大神の方に神

女 (おめのほ) (おめ) となつ

に瓜ふたつである。

異斯夫 (イサマ) (ま) (ま)

衣を織りつつ、齋服殿に居

ていて、天照織女は「陰上

結局、日本書紀欽明二十

同一の名譽を有す。結局す

しませを置て、即ち天斑駒

(はと。女性性器) を後で

三年七月条の加羅の事件と

れば、スサノオ・イソタケ

(おめのほ) (おま) を剥ぎ

衝 (つ) かれて死んでゐる。

同神代系の高天原での事件

ル伝承の背景には、五六二

て、殿の妻 (うら) を奪

後 (おの) (せん) が特

とは、

年に起つた重大事件、

(うが) ちて投げ納る。是

徴であるから、明らかに男

新羅 女犯 剥

「在耶 (みまた) の織上」

の時に、天照大神、驚動

女性性器、それもスサノオの

の共通項で括 (く) (り) え

があつたのではないか。

(お) (ま) (ま) きたまひて、後

一物 (いちもの) を奪 (う) (す)

らるのである。スサノオやた

(五十猛羅更研究会會員、

(か) (び) (ま) 以て身を褻 (う) (す)

てゐる。ついでにのエン

らる乱行とやら、美は齋屋

みづいあつて)

前回で欽明二十三年七月

高麗 (コリョ) におびる

かび) (ま) 以て身を褻

てゐる。ついでにのエン

らる乱行とやら、美は齋屋

みづいあつて)